

Ⅲ 「農のある暮らし」の実践例

農林水産業が果たしている役割を理解し、その大切さや農林水産物の価値を知ることは、知らず知らずのうちに地域の農林水産業を応援したり、自らの健康的な生活につながったりします。

そこで、県民のみなさんに農林水産業に親しむ活動を積極的に生活の中に取り入れていただく「農のある暮らし」の実践を進めています。



稲はどうやって育つのかな？

「農村環境保全活動」に取り組む活動組織が、一宮市内の小学校と連携し「田植えの体験学習」と「稲刈りの体験学習」を実施しました。地元の保全会会員の指導のもと、天気にも恵まれ、児童は初めての体験に歓声を上げ、大はしゃぎ。地域住民との交流も深まり充実したものになりました。

普段食べている「お米」ですが、このような啓発・普及活動を通じ、子ども達が農作物や農地のことなど農業に関心を持ってくれたら、と願っています。



水が気持ちいい



みんなで収穫

菌床きのこ栽培研修会を開催

平成 26 年 1 月に県内の菌床きのこ生産者の現地研修会が、豊明市の菌床シイタケ生産者宅で開催されました。約 30 名の参加者は、シイタケ栽培の工夫や菌床の製造工程の工夫などの説明を熱心に聴いた後、意見交換などを行いました。

主催した愛知県菌床栽培研究会は会員約 60 名で、会員の栽培技術や経営改善のため、例年研修会を開催しています。尾張地区の菌床きのこ生産量は年間約 21 t (H25) で豊明市と春日井市で生産されています。



シイタケの栽培状況を見学



きのこ生産者で情報交換

花いっぱい県民運動、尾張版フラワーウォーク

平成25年度新規事業「花いっぱい県民運動」で設定された「今月のあいちの花」として、管内では、6月に江南市、大口町のハイビスカス、10月に一宮市、春日井市、稲沢市の花壇苗、11月に稲沢市の白輪ギクを、市町及び生産者と連携して展示し、県民が花に親しみ、暮らしの中に花を取り入れる取組を行いました。

また、今月のあいちの花と連動して、尾張花き連合会の会員が生産する花で、6月にハイビスカス、10月に花壇苗、12月にシクラメンで、尾張版フラワーウォークを初めて実施し、尾張農林管内に主要花き産地があることを知ってもらうなどPR効果がありました。今後も、尾張花き連合会と連携してフラワーウォークを開催し、花きのPRと消費拡大を図っていきます。



6月のあいちの花 江南市のハイビスカス



フラワーウォークの状況

農業と食育をいっしょに学ぶ

春日井市とJA尾張中央が共催する「親子で農業体験」の閉校式が平成25年11月30日に開催され、参加した親子が、食育推進ボランティアから農作業体験をもとに食育を学びました。

当日の参加者は親子16組40人で、「もぐもぐ倶楽部」から、機械を使わない人力での精米体験を通して昔の精米方法について体験し、「きいろいタンポっ歩」から、エプロンシアター“何でも食べる元気なまあちゃん”で、おにぎりを食べるとどのように消化・吸収されるのかについて楽しく学びました。参加者は、初めての精米体験に一生懸命取り組み、エプロンシアターも興味深く話を聞いていました。

今後も農業と食育を結びつける活動に取り組んでいきます。



精米体験

ビンに入れた玄米を棒で突いて精米します



エプロンシアター

エプロンを小道具にして、食べ物の消化・吸収の仕組みを説明します



IV 施策体系ごとの目標達成状況

施策体系	施策目標	2015年度 目標値	2013年度		中間達成率 (%)※	
			目標値	実績		
安全で良質な農林水産物の生産と供給の確保 柱1	(1) 活かすあいちの農林水産業	「生産者と消費者の思いを伝える農林水産業」のモデル事例の育成 5年間で5モデル以上	3モデル	6モデル	200.0 累	
	(2) 意欲ある人が伸びる農業の実現	基幹経営体の育成	280経営体 (241経営体)	267戸	280戸	104.9 現
		新規農業就業者の確保	5年間で85人	51人	82人	160.8 累
		耕作放棄地の再生	農用地区域を中心に 5年間で125ha	75ha	168ha	224.0 累
		自然災害に強い農地の整備	5年間で 1,270ha	111ha	1,447ha	1,303.6 累
	(3) 食品の安全・安心の確保	「農産物環境安全推進マニュアル」をはじめとしたGAP手法導入組織・法人等数	14産地(6産地)	10産地	12産地	120.0 現
		JAS法に基づく表示状況調査の実施	毎年322か所	322か所	298か所	92.5 単
県産農林水産物の適切な消費と 柱2	(1) 食や農林水産業に対する県民の理解と活動の促進	農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合(名古屋市を除く)	75%(50.4%)	65.1%	54.6%	83.9 現
	(2) 県産農林水産物の消費と利用の促進	「いいともあいち運動」を知っている人の割合	50%(39.9%)	45.9%	— (調査制度廃止のため把握不能)	— 現
		産地直売所等の交流施設を利用する人数	6,278千人/年 (5,762千人/年)	6,071千人	5,050千人 (隔年調査)	83.2 単
自然災害から守られ、緑と水に恵まれた生活環境の確保 柱3	(1) 森林等が有する多面的機能の適切かつ十分な発揮	農地等の保全向上活動を実施する面積	毎年2,459ha	2,459ha	2,466ha	100.3 単
		県民との協働・連携により農地等で生物多様性の保全活動を実施している組織数	15組織(14組織)	14組織	7組織	50.0 現
		生物多様性の保全や環境に配慮した農業用施設の整備地域数	21地域(15地域)	18地域	23地域	127.8 累
	(2) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保	ため池や排水機場の改修(5年間で4か所)などにより洪水や地震被害のリスクから守られる住宅戸数	5年間で 27,700戸	984戸	28,810戸	2,927.8 累
		治山施設の整備により山地災害に対する防災機能の向上が図られる面積	5年間で120ha	72ha	102ha	141.7 累
	(3) 環境への配慮と資源の再生・循環利用を図る取組の強化	農業分野におけるCO2排出量の削減	2015年度における年間排出量の削減 1,100トン	660ト	131.02ト	19.9 現

※2015年度目標値の欄の()内は基本計画策定時の現況値

※備考欄の(単)は単年度値、(累)は各年度までの累積値、(現)は各年度における現況値で、実績数値の表示区分

※中間達成率=2013年実績/目標値



愛知を食べよう いいともあいち

食と緑の尾張地域レポート ' 1 4
(平成25年度版)

平成26年7月

愛知県尾張農林水産事務所
〒460-0001 名古屋市中区三の丸二丁目6-1
電話(052)961-1597(農政課直通)
E-mail owari-nourin@pref.aichi.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/nourin-owari/>



尾張農林水産事務所